

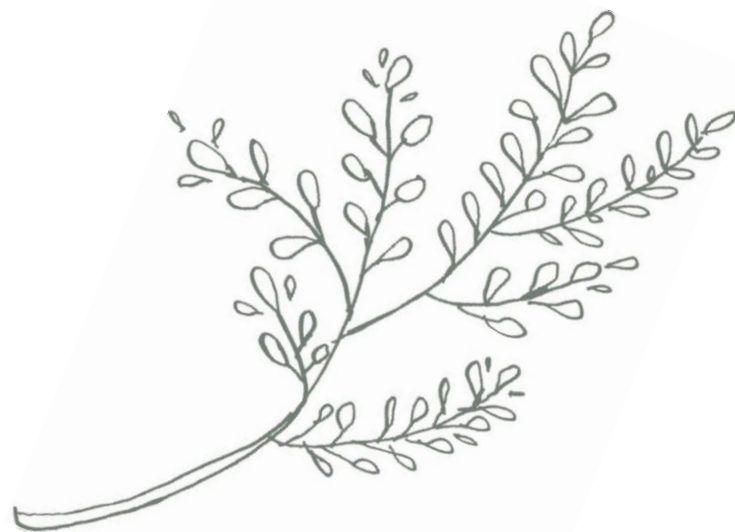
原発事故後の健康を見守る 私たちにできること

ひだまりマルシェの3.11事業について

2018.10.14

NPO法人Annakaひだまりマルシェ

代表理事 神戸るみ



1. 事業を実施するに当たっての 基本的視座

- ① 子どもたちの健康に注視していく
- ② 社会問題を顕在化させる
- ③ 当事者に社会参加を促す



①子どもたちの健康に注視していく ～あの時何が?～

- 2011年3月下旬に川俣町、いわき市、飯舘村の15才以下の子どもたち1,080人にNaiシンチレーションサーベイメータで前頸部を3回測定。その平均値を評価
- 弘前大学被ばく医療総合研究所による調査。浪江町の住民62名を対象。
- 長崎大学先導生命科学研究支援センターによる調査。長崎大学にて173名をホールボディカウンターにて測定。



初期被ばくの正当な評価が
できていない

①子どもたちの健康に注視していく ～放射線の健康への影響～

線量測定と計算 実効線量への換算係数

預託実効線量係数 (μSv/Bq) (経口摂取の場合)

	ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	ストロンチウム 90	プルトニウム 238
3か月児	0.48	0.028	0.011	0.13	5.2
1歳児	0.18	0.018	0.012	0.073	0.42
6歳児	0.10	0.013	0.0088	0.047	0.33
10歳児	0.062	0.014	0.01	0.08	0.27
16歳児	0.034	0.018	0.013	0.08	0.24
成人	0.022	0.018	0.013	0.028	0.26

μSv/Bq: マイクロシーベルト/ベクレル

出典: 国際放射線防護委員会 (ICRP), ICRP Publication 119, Compendium of Dose Coefficients based on ICRP Publication 60, 2012

ECRR:
0.55

ECRR:
0.22

ECRR:
0.11

社会的立場によって異なる換算係数

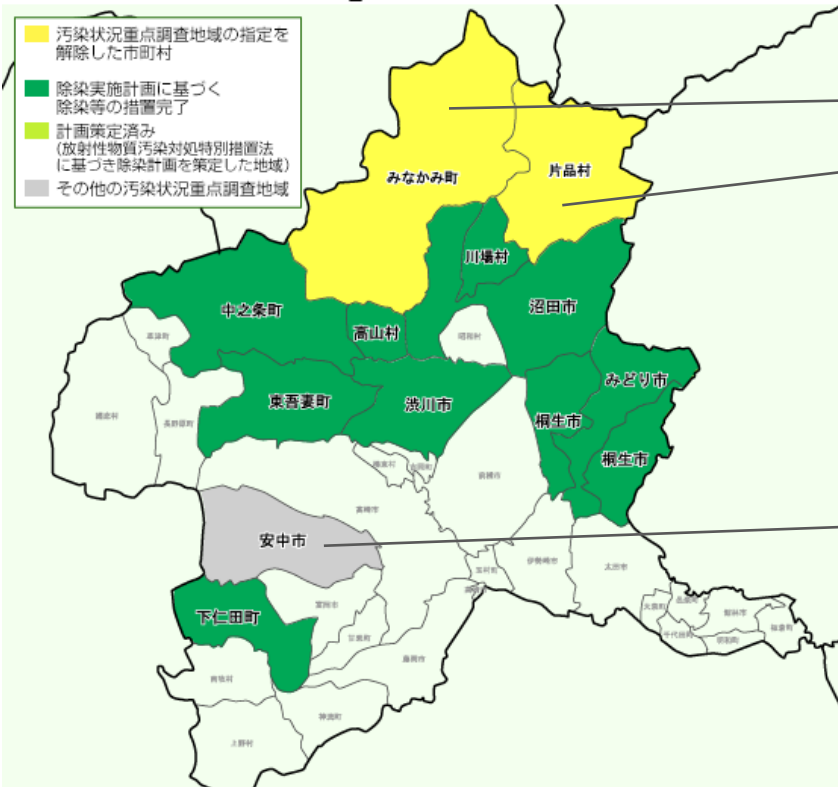


健康への影響も推定値

②身の回りにおける社会問題を顕在化させる ～群馬県の場合～

群馬県

進捗の詳細をご覧になりたい市町村をクリックしてください



みなかみ市・片品村：
2012年12月
指定解除

安中市：
2017年3月22日
指定解除

出典：環境省 汚染情報サイトより神戸転記

②身の回りにおける社会問題を顕在化させる ～群馬県 放射線の健康への影響に関する有識者会議～

第1回：2011年11月21日（月）

- 子どもについては、放射線の感受性が高いということもあるが、少なくとも今、がんが直ぐに発生する訳ではないし、甲状腺機能低下症については、線量が全然違うので、発がんの観点からすれば、小児であってもこの程度であれば影響はない。

第2回：2012年6月25日（月）

- 甲状腺の検査というのは、良性なしこりの患者さんの場合ずっとフォローをして精神的、物理的な負担をかけるということになる。群馬県に関して言えば、線量的には健康面、発がんのリスクからみても、ほとんど自然の放射線量と同じであるから、これで過剰な反応を示して健康な方に迷惑をかけるということは考えなければならない。

③当事者に社会参加を促す ～事実を共有する～

2016年度
甲状腺エコー検査報告会
3.11後を生きる
子どもたちへ

2017年
3月25日(土)

会場 高崎市総合福祉センター
(高崎市末広町115-1)

第1部 13:30～
2016年度
甲状腺エコー検査実施報告

第2部 15:30～16:30
基調講演 「3.11後を生きる子どもたちへ」
講師：祐聖学院大学前講師 岩直政 氏

主催：NPO法人 Annaka ひだまりマルシェ
〒379-0222 群馬県安中市松井町松井564
協賛 生活協同組合バルシステム群馬・よつ葉生活協同組合

参加費 一般 1,000円 高校生以下無料
2016年度
甲状腺エコー検査を受けた方
及びその保護者 500円
前日限り必ず先着抽選

2017年度
甲状腺エコー検査報告会

2018年 参加費無料
3月31日(土)
13:30～16:00

会場 高崎市総合福祉センター
会議室4(3F)
群馬県高崎市末広町115-1

プログラム

第1部
2017年度
甲状腺エコー検査実施報告

第2部
「福島7年、私たちの7年。」

主催
NPO法人 Annaka ひだまりマルシェ
〒379-0222 群馬県安中市松井町松井564
助成元
バルシステム生活協同組合連合会・高木仁三郎市民科学基金
協賛団体
バルシステム群馬

福島7年、私たちの7年。

土壌測定について



2017年度土壌測定の実施体制

- 機器 : ATOMTEX製AT1320A
- 検査場所 : 法人事務所
- 目的 : 子どもたちの暮らす環境の今を知ること



今後の活動について

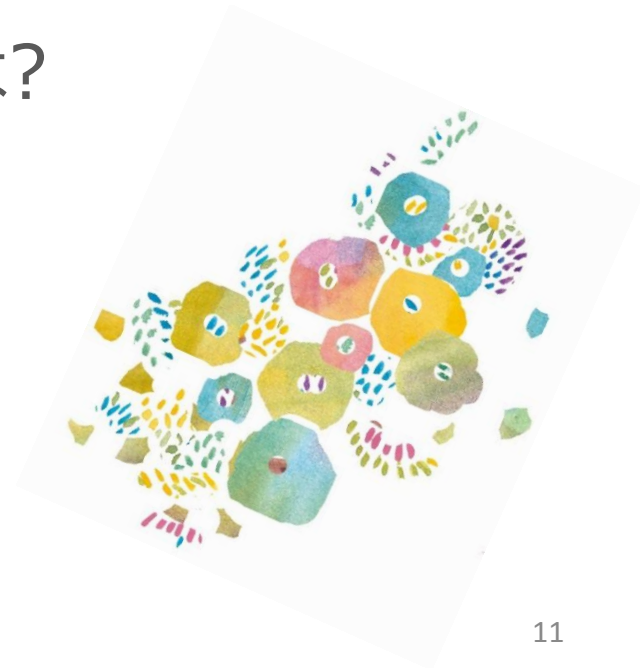


直面する課題

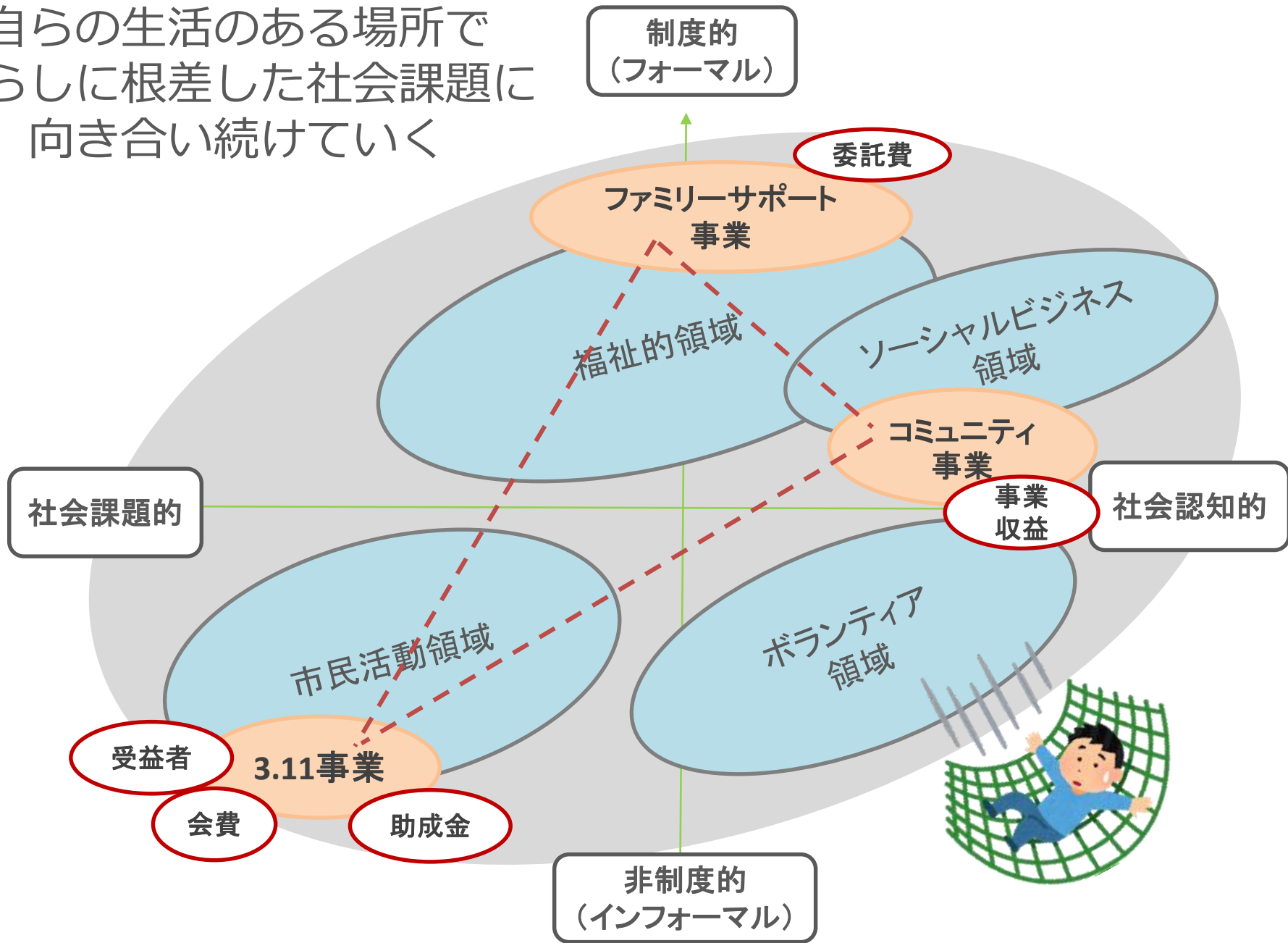
- 8年という時間の経過



事業の明確な意味づけが、より重要に。
「3.11を問い続ける」とは？



自らの生活のある場所で
暮らしに根差した社会課題に
向き合い続けていく



これから
～とともに考え、行動する～

- 理念を貫く事業運営
- 安定的な資金調達
- 市民活動の周知を図る
- 市民活動団体が互いに協力し合える仕組みづくり



生活圏域における市民活動の活性化が、
社会課題に向き合う土壌を醸成する

ご支援ありがとうございました。

そしてこれからも、
よろしく願いいたします。

